

# なんでたたたくんや

そうたさんは、せいりせいとんが じょうずです。ふでばこや どうぐばこの なかを いつも きちんと せいりして います。いつもは やさしいの ですが、ときどき がまんできずに 大きな こえを だしたり ともだちを たたいてしまったりすることが あります。

ある日、たくやさんが そうたさんの ノートを つくえに だしてあげようと したら いきなりそうたさんが たたいてきました。たくやさんは、

「そうたなんか きらいや。ぼく なんもせんのに たたいた。」

と 大なきをして けんかになりました。

先生は、

「たたいたら だめや。」

といて、そうたさんに あやまらせました。



そして たくやさんに

「そうたは、うまく いえなくて、くやしい やろうなあ。」  
といました。

ある日、おんがくしつへ いくときに、そうたさんが 大きな こえをだして、なな子さんを  
たたこうと していました。

「こつちだよつて、おしえてあげた だけなのに・・・」  
と、なな子さんは ないています。

それを みた たくやさんは、なな子さんの そばに かけよりました。

☆ そうたさんは、 どうして ともだちを たたこうと したのでしょう。

☆ たくやさんは、 なな子さんに なんと いったでしょう。

## なんでたたくんや（小学校低学年）

### A 教材設定の理由

他者を意識し、なかまとして気持ちを通じ合う関係を作っていくことは、人権意識を培っていく上で基本となるものである。

ただし、低学年の子どもたちは、まだ自分のことだけで精一杯な子どもも多く、周りの子どもがどんな気持ちでいるのかを推し量ることが多い。そのため、いろいろな場面で互いにぶつかり合うことが多い。ところが、自分の考えや気持ちをまだうまく言葉で伝えきれないため、悲しい気持ちやさびしい思いをしても、お互いに分からないまま過ごしていたりする。そして、相手の表面的な姿だけで、「乱暴な子」「行儀が悪い子」などと、一方的に決めつけ、イメージを作り上げてしまいがちである。そのうえ、さらなる行き違いや誤解によって相手との間に次第に深い溝ができあがってしまうことさえある。

そこで大切になってくるのが教師のかかわりである。子どもたちのぶつかりあいをそのまま放置しておいたり、現象面ばかりに目がいき、身勝手な子どもたちと決めつけ、行動を押し込め込んでおけば、子どもたちは本音を出すことができず、心を閉ざしていくだろう。

子どもどうしのぶつかりあいを、自分の気持ちを伝え合い、お互いに理解し合うチャンスだと捉えたい。そして、現象の裏にある一人ひとりの背景にまで目を向けたい。なぜそうするのだろうかかと、その行動の原因を相手の立場や気持ちになって考えること

で、子どもたちは次第に本音を出していくだろう。そして、教師も周りの子どももその思いに触れながら、お互いに気持ちを通じ合う関係を作っていくのである。

本教材により、お互いの気持ちをきちんと伝え合い、理解し合おうとするなかま作りをすすめていきたい。

### B 教材の解説

この教材の場面は、実際に県内の小学校一年のクラスで起こった出来事である。そうたさんは、障害児学級に籍を置き、自分のペースを大切にしている子であった。ランドセルに教科書を入れる時には、きちんとそろえて入れないと気がすまなかったり、筆箱や道具箱の中もいつも自分なりの方法で整理整頓したりしていた。ただ、一年教室の集団生活で、自分自身でペース通りできなかった時や、友だちがかかわってペースが違った時には、自分では感情を抑え切れずイライラを募らせていくことがよくあった。その結果、大きな声を出したり、近くの友だちをたたいてしまったりするのであった。時には、「そうた、どうしたらいいんだよ。だれか、止めてよ」と自分で叫ぶこともあった。

交流学級の子どもたちも、一学期は、学校生活の大部分を「なかよし学級」（障害児学級）中心に過ごすそうたさんと関係を作ることには難しかった。外掃除の際、彼が近くの神社に行こうとしていなくなったことに誰一人気付かなかったこともあった。

子どもたちとそうたさんとの間に壁を感じた一年担任となかよし学級担任は、二学期から一年教室で過ごす時間をできる限り増やし、なかまとして共に成長し合えることを願って再スタートを

切った。それからの子どもたちは、そうたさんが大声を出したり、友だちを叩いてしまった時には、自分たちで言い聞かせたり、担任へ「そうたさん、たたいた」と言いに来たりするようになった。

このような中で、十月に今回の出来事が起こったのである。たくやさんとそうたさんがけんかになった時、先生はそうたさんに「友だちをたたいたらだめや」と注意して謝らせている。その後で、たくやさんには、「そうたはうまく自分で話せないから、時々いやなことがあったらたたいてしまふんやなあ。うまくいえずくて、くやしいやろうなあ」と声をかけるだけに留めた。(教材文には一部を抜粋)

後日たくやさんは、「こっちだよ」と場所を教えてあげたなな子さんに、そうたさんが大きな声を出して、手を上げている姿を見かける。そして、さつと二人に駆け寄る。教材文はそこで終わっているのだが、その後たくやさんは、「そうた、じゃませんといわって言うてるんや」となな子さんに教えてあげたという事実が続く。そして、たくやさんによってそうたさんもなな子さんも救われ、互いの気持ちを考える方向に転換したのである。

このたくやさんの行動は、先生の言葉を実感したからこそ生まれたものである。たくやさんは、他の子が「そうたやし、しかたない」と見逃していたことも、「そうたもするべきだ」と声をかけていた。そのため、しばしば二人はぶつかりあいを重ねてきた。だからこそ、たくやさんなりに先生の言葉が納得できたのである。

さらに、その後、国語の授業で順番に本読みをしていた時に、そうたさんが突然大きな声を出し始めたことがあった。先生が「そうたの言いたいこと分らん」と言うと、彼の隣りの子が、「そうちゃん、順番まっとするのがいやなんじゃないか」と話したり、つ

ぶやくような声で読むそうたさんに、離れた席の子が「聞こえたわ、そうた、ちゃんとよんどったな」と話したりして、そうたさんの気持ちを分かろうとする子どもたちの姿が見られたのである。このように、うまく言葉で表せないそうたさんの思いを、考え感じ取っていく子の広がりが出てきたのである。

### C 教材の使用にあたって

①本教材を使って授業を行う場合、このたくやさんの言葉だけを正解として与えるのではなく、子どもたちが考え発言する内容を大切にしたい授業展開として欲しい。

②思っただけでうまく伝えられない思いを聞き取る場合、少しでも言ったり書いたりできたことを十分に認め励ましていきたい。

### D 参考資料

#### 第四十九回全国同和教育研究大会報告

「いっしょにいることで見えてきたこと」

林令位子（小松市立符津小学校・当時）

#### 第四十九回全国教研報告

「この子の居場所を求めて」

川東外茂子（小松市立符津小学校・当時）

E 授業の展開例

授業の展開と基本発問	学習内容と支援
<p>1 導入</p> <p>① みなさんは、友だちからいやなことをされたことはありますか。</p> <p>2 展開</p> <p>② 「なんでたたくんや」を読みましょう。</p> <p>③ そうたさんは、どんな子ですか。</p> <p>④ なぜそうたさんは、たくやさんをたたいてしまったのでしょうか。</p> <p>⑤ たくやさんは、なな子さんになんと言ったでしょう。</p> <p>3 まとめ</p> <p>⑥ みなさんは友だちにうまく言えなくて、くやしい思いをしたことはありますか。なぜ言えなかったかわけも考えてみましょう。</p>	<p>① いやなことをされて困ったことを自由に出させ、話しやすい雰囲気を作る。</p> <p>② 教職員が読み聞かせる。</p> <p>③ 言葉がうまく出ないが、几帳面で自分のことは自分であることを教材の解説により補足しながら確認する。</p> <p>④ 自分の経験からそれぞれが想像できることを自由に出させる。そうたさんが、なんと言いたかったのか想像させる。</p> <p>⑤ 先生の話聞いて、そうたさんの気持ちを推し量って出たたくやさんの行動と言葉を想像させる。この時、実際にたくやさんが発した言葉を正解として与えるのではなく、子どもたちが考え発言する内容を大切にしていく。</p> <p>⑥ 言えなかった子には、気持ちを書かせてその後の学級作りに生かしていく。</p>